

令和7年12月9日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会

2025年12月8日 青森県東方沖の地震の評価（案）

- 12月8日23時15分に青森県東方沖の深さ約55kmでマグニチュード(M)7.5の地震が発生した。この地震により青森県で最大震度6強を観測し、負傷者が出るなど被害を伴った。また、この地震により青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測した。
今回の地震により、岩手県久慈港観測点で0.7m、北海道浦河観測点で0.5mなど、北海道から福島県にかけての太平洋側で津波を観測している。
- 発震機構は西北西―東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、発震機構及び震源の深さから陸のプレートと太平洋プレートの境界で発生した地震と考えられる。
- GNS S観測によると、今回の地震に伴って、青森県下北郡東通（ひがしどおり）村の東通2観測点が東方向に約9cm移動するなど、青森県を中心に地殻変動が観測された。
- 今回の地震活動は、東西約110km、南北約30kmの範囲で発生しており、1968年十勝沖地震の主な破壊領域の北部領域で発生している。地震活動は12月9日15時までに最大震度1以上を観測した地震が●回発生するなど、継続している。9日15時までの最大の地震は、9日06時52分に発生したM6.4（速報値）の地震である。
- 今回の地震は、地震調査委員会が「日本海溝沿いの地震活動の長期評価（平成31年2月26日公表）」で想定していた領域「青森県東方沖及び岩手県北部」の「ひとまわり小さいプレート間地震」（M7.0～M7.5程度）で発生している。長期評価では、この領域の地震は30年以内に発生する確率はⅢランク（高い）で、海溝型地震の中では発生する確率が最も高いグループに分類されており、今回の地震の周辺では、「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」（M7.6）が発生している。
- 今回の地震は、同規模の地震が続けて発生しやすい領域（続発領域）内で発生している。過去の事例では、続発領域内で大きな地震が発生した場合は、規模の近い地震や、より規模の大きな地震が続発しやすい傾向がある。今回の活動の周辺では、1943年に青森県東方沖のM7.1の地震の約2日後に、M6.6の地震が発生した事例がある。そのため、地震発生から1週間程度、M7.6と同規模程度以上の地震に注意が必要である。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあり、注意が必要である。
- 今回の地震により、北海道の根室沖から岩手県の三陸沖にかけての領域におい

て、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていると考えられるとして、北海道・三陸沖後発地震注意情報が気象庁から発表されるとともに、内閣府からとるべき防災対応の呼びかけが行われている。巨大な地震により、強い揺れや大きな津波が想定される北海道から千葉県にお住まいの方は、内閣府や自治体からのよびかけに従っていただきたい。

＊：海溝型地震における今後 30 年以内の地震発生確率が 26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Ⅹランク」と表記している。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。